

## アジアにおける同性愛者の人権 (3)

ローラン エリック

- 0. 序 言
- 1. 人 権：アジアにおける西洋のモデルの妥当性
  - 1.1. 人権の非普遍性
  - 1.2. アジアにおける西洋の影響
- 2. アジア的なゲイのアイデンティティ
  - 2.1. アジアの多様性
  - 2.2. 同性愛エロチシズムのアジア的な伝統
  - 2.3. 多方面なアイデンティティ
- 3. 方 法 論
- 4. 各国各々の状況
  - 4.0. 序 言 …… (以上, 38 巻 3 号)
  - 4.1. イ ン ド            4.2. スリランカ
  - 4.3. ネパール            4.4. バングラデシュ
  - 4.5. モンゴル            4.6. 中 国
  - 4.7. 香 港                …… (以上, 39 巻 1 号)
  - 4.8. 台 湾                4.9. ビルマ (ミャンマー)
  - 4.10. タ イ                …… (以上, 本号)

### 4. 各国各々の状況 [承前]

#### 4.8. 台 湾

##### LGBTQ のグループ

「アジア・レズビアン・ネットワーク」(Asian Lesbian Network - ALN), 台北市  
(PO Box 7-760), LB の女性のためのグループ

「覚醒財団」(Awakening Foundation), 台北市, L :

<http://wsO.taiwane.com/awakening>

「セクシュアリティ研究センター(台湾国立中央大学)」(Center for the Study of Sexualities), 台北市 : <http://sex.ncu.edu.tw>

「台湾性別人権協会」(Gender/Sexuality Rights Association - GSRAT) :

<http://gsrat.net>

「スピーク・アウト」(Speak Out), 台北市 (PO Box 58973), L の権利のグループ

「台湾人権促進会」(Taiwan Association for Human Rights) :

<http://www.tahr.org.tw>

「台湾同志ホットライン」(Taiwan Tongzhi Hotline) : <http://www.hotline.org.tw>

「台湾大学男同性愛研究社」

「台湾 TG バタフライ・ガーデン」(Taiwan TG Butterfly Garden), 台北市, トランスジェンダーの権利のグループ

「ウーマン・ジ・ジャン」(Women Zhi Jian; Women Between Us), 台北市, L :

<http://come.to.wzj>

### 社会・文化の背景

大陸の中国や香港と同じように、台湾の社会にも、1949年から結婚を促進するためのプレッシャーは大変強く、さらに民間信仰を通じて強調され、その目的は、生殖や家族作りである (Hinsch, 2000; Wang and Gofyy, 2000; Damm, 1998)。台湾の社会には、儒教や道教、仏教の一種のハイブリッドが存在していて、その価値がいわゆる新儒教的族長的家族主義に基づいている (Huang, 2000)。台湾人にとって、同性愛的な性行為が、結婚に対して邪魔にならない限り、あまり問題ではない (Cogswell, 2000)。

現在の台湾の性文化は、ローカルの伝統的な文化や主に西洋から輸入されているグローバルなゲイ文化に基づいたハイブリッドの形を取っている (Martin, 2004)。1992年に香港から来た「同志」という言葉が現在広く使われ

ているが、1960年代には、同性愛者を示すために、「アス - ass」(ケツ)の俗語であった「グラス」が使われていた。いわゆる受け身的同性愛者は「0番」と呼ばれ、能動的同性愛者は「1番」と呼ばれていた (Huang, 2000)。女性同性愛者のサブカルチャーは、「T (tomboy)/po」(要するに受け身/能動)という対立をもとに構成されている (Martin, 2004)。

### 法律の状況

1949年に蔣政権から強いられ、1987年に取り消された戒厳令は、明白に性の反対であった。その当時、クルージング・スポットやバー、サウナは警察から攻撃され、同性愛者たちは、しばしば逮捕されていた (Huang, 2000; Cogswell, 2000)。性・ジェンダーのコードの違反に対して寛容は示されなかった。例えば、ふさわしい衣服を着なかった人々が、“共産主義のスパイ”と判断され、時々“内通”のため逮捕されていた (Chao, 2001; Martin, 2004)。1987年以降、マスコミの自由化は、LGBTQのグループを含めた様々な少数派にとって、表現するチャンスを大いに与えてきた (Damm, 1998)。

同性愛的であれ異性愛的であれ、同意の性行為が許される法律上の年齢は、16歳である (ILGA)。現在、同性愛は、違法ではないけれど鎮圧されている。が、同性愛者への根強い迫害は存在していない (Hinsch, 2000; Martin, 2004)。しかしながら、“上品な習慣”や“文化的倫理”違反という行動に対する法律は、公の場所で性行為をしている同性愛者たちを逮捕するために使われている (Martin, 2004)。台湾では、肛門性行為に対する法律は決してなかった。同性愛者に対しての法律上禁制の欠如は、日本の植民地からのなごりに理由があるかも知れない (Offord, 2003; Martin, 2004)。それにも拘わらず、同性愛というのは、法律の範囲に存在していないわけがない。1999年まで、強姦というのは、法律上、同意なしの性行為だけを示していた。1999年の修正案には、強姦として同意なしの同性愛の性行為も含まれている (Lin, 2000)。

他方、LGBTQ のために、反差別法は（まだ？）存在していない<sup>1)</sup> (Huang, 2000)。台湾人権促進会は、「認められていない [……] あまり力のないグループ [……]。法的なステータスがない限り、同性愛者たちが、自由に生きるという権利のために戦うのは、難しい」と判断している。

同性愛的な性行為を軍人が行くと、死刑を与えられる可能性がある (Spartacus, 2002-03)。しかしながら、2002年5月1日に、軍隊での同性愛的な性行為の禁止を取り消すと台湾政府が言っていたが、現在に至ってもまだ取り消されていない。同性愛は、“性指向の障害”と呼ばれていた。が、国防省によると、「軍隊が、同性愛者を含めて全ての国民を守ってあげる」<sup>2)</sup> (Gay.com, 2002; Hsu, 2002)。

#### 法律の適用

台北のニュー・パーク (New Park) のようなゲイのクルージング・スポットでは、警察が頻繁に攻撃する (Wang and Gofyy, 2000)。警察が権力を濫用するという代表的な例として、様々な事件が起こされていた。それらに対して、殆ど毎回、LGBTQ グループから激しい抗議が行われていた。しかし、殆どの場合に、マスコミは、警察に味方している。

\* 1997年7月に、台北のチャングット通りで警察との市街戦 (Wang and Gofyy, 2000)。

\* 警察からいやがらせを受けた後、1998年12月にAGジムが警察に攻撃された。客は性的なポーズを無理矢理に取らされたところを写真に撮られた。2000年2月に、“猥褻行為をするための場所を与えた”として起訴されていたトレーナーが、地方裁判所で、無罪の判決を下された (Wang and Gofyy, 2000; ILGA)。

\* 1998年12月に、フィッシャーメンズ・ウオーフ (Fisherman's Wharf) という



パブが警察に攻撃された (Wang and Gofyy, 2000)。1999年12月に、クン・クアン (Kung Kuan) というゲイ・バーも警察に攻撃された (Wang and Gofyy, 2000)。

\* 2004年1月に、警察が、いわゆる性的麻薬的なパーティが行われた台北のアパートを攻撃して、男性93人を逮捕した。下着しか着ていない姿で、その93人の男性の映像が、何回もテレビで放送された後、警察もマスコミも人権のグループから強く批判された。エイズ感染を非常に恐れて、自分のアパートを消毒した隣のアパートに住んでいる人々のインタビューも、放送された (Taipei Times, 23.01.2004)。

同性婚が法律上の事柄ではないにも拘わらず、1996年11月10日に、賑やかな儀式をもって、ゲイ作家シュ・ユシェンとそのウルグアイ人のパートナーの結婚が行われたけれど、市役所では正式な登録ができなかった (Lin, 2000; Lin, 2000)。さらに、2000年10月に、初めて宗教的に5組の同性愛のカップル (30歳代の女性8人、男性2人) が結婚した (Lin, 2000)。同じように、2003年8月に、20歳年代の2組のカップルの男性が、中央の地域のホテルで結婚したが、正式には認められなかった (Taiwan News, 05.08.2003)。

HIVに感染している外国人が、台湾から追い出される (Gay Law Net, 2001)。さらに、2001年から、同性愛者やバイセクシュアル、“エイズを感染させる危険グループ”からの献血が、厚生省により禁止されている。そうすることは、エイズが同性愛と親密に結ぶということを意味する。要するに、エイズの問題に対して、無理解や無知識ということである。LGBTQのグループからの抗議は、何も変化をもたらさなかった。献血では、LGBTQに対して差別を示している国々がまだ多く存在しているのに、例えばイタリアや南アフリカは、2000年に、その禁止を取り消した (Taipei Times, 27.09.2005)。

2003年に、「セクシュアリティ研究センター」の創立者でもあり、LGBTQ

やセックス・ワーカーの権利の擁護者でもあり、性アクティヴィストでもある何春蕤 (Josephine Ho) 教授は、彼女の台湾国立中央大学でのアカデミックなポジションを取り上げさせようとしている右寄りの女性団体やカトリック教団体からのキャンペーンの的になった。彼女は、伝統的な価値観を壊乱し、若者に悪い影響を及ぼす猥褻を普及させたとして起訴された<sup>3)</sup> (Martin, 2004; Utopia, 2003)。ギンギンというゲイ本屋の持ち主、カイ (J.J. Cai) さんが、輸入されたみだらな書物の販売で起訴された。この事件は、2005年10月現在、控訴院で裁判中であった。

### LGBTQ の状況

アジア人の LGBTQ によると、1987年以降の台湾は、日本やタイと並んで、アジアの国々で最もゲイ・フレンドリーな国の一つである (Cogswell, 2000; Ammon, (1996) 2005; (2001) 2005)。中国の世界では、台湾は、最もオープンなゲイ・シーンを持っている：G&L というトレンディーなゲイ雑誌やいくつかのラジオのゲイ番組、沢山のゲイ的な本、一軒の同性愛の本屋、政治的な組織、非常に多くのゲイやレズビアンネットでのサイト (Cogswell, 2000; Hirsch, 2000; Huang, 2000)。台湾でゲイ・バーは1960年代から見られたけれど、ゲイの商業的文化は、一種のクィア・ブームと共に、1990年代から出現した (Martin, 2004)。それに対して比較的、レズビアン文化の方は隠れている。台湾での最初のレズビアン・バー (T-bar または Tomboys bar) は、1985年に台北で開店し、日本的な雰囲気があったと言われている (Chao, 2001; Martin, 2004)。台湾には、全員女性の伝統的な“民族オペラ”の劇団が存在している。宝塚歌劇団と同じように、女優は、男性役か女性役に固定化されていて、時々日常生活に影響を及ぼしている。女優にとっても客にとってもレズビアニズムと判断されていない同性的なエロチシズムが、時々現れてくる (Martin, 2004)。

1987年に行われたデモクラシーへの移行から、台湾で、一般の社会的な変化と共に、小さいが活発なクィア・アクティヴィズムの運動が現れてきて、段々強くなってきている (Cogswell, 2000; Ammon, (1996) 2005)。当時から、大学では、いくつかの同性愛に関する授業やゼミも出てきた (Damm, 1998)。例えば、台湾国立中央大学の何教授から1995年に創立された「セクシュアリティ研究センター」は、アカデミックの立場であれ、アクティヴィストの立場であれ、様々な研究者たちを招待したり、性に関する現象についての色々な情報を集めたりして、大変活発な活動をしている。

2001年6月に、同性愛者の長健発 (Tuan Chien-fa) は、台湾で初めてカミングアウトした高校の教員である。文部省は、彼のオープン性を褒めながら、「生徒たちやその親にセクシュアル・マイノリティに対する尊敬を教えられる」とまで言った。しかしながら、世間の前で学長が“長氏のカミングアウトが問題なしで受容された”と言ったにも拘わらず、学生やアクティヴィストによると、学長は他の教員たちに長氏のことについて弁解した。この事件からは、学校にとって、同性愛というのは恥じることでであると判断できる。台湾では、学校での性教育、言うまでもなく性指向についての情報は、大変不足している (Chuang, 2001)。

台湾人権促進会によって公衆衛生や人権を守ると言い訳して、“国家機関は、同性愛者たちが様々な病気を移す原因と見なしながら、彼らに対しての差別を強めて永続させている”。したがって、ゲイ・バッシングや同性愛者向けの本屋などに対しての破壊行為が広く行われている。さらに、同性愛のマスコミによる取り上げ方は、同性愛者のプライバシーという権利を侵してナイト・ライフについてのレポートを含めながら、大変拒絶的である。現在でも、同性愛は、医学的・心理学的な研究では病気と見なされている (Wang and Gofy, 2000)。

女性の団体が『覚醒』(Awakening)というレズビアン雑誌を売り出した後、1987年10月に「覚醒財団」が創立された。彼女たちは、女性問題についての意識を向上しようとしている。ただのレズビアンだけのグループではないにも拘わらず、雑誌の中で、レズビアンの問題も取り扱っている(覚醒財団)。「ウーマン・ジ・ジャン」というアジアで最初のレズビアンのグループは、1990年2月に台湾で創立された(Hogan and Hudson, 1998; Martin, 2004)。1993年に、セーフター・セックスのようなエイズ予防を活動の中心としている「Gay Chat」という同性愛のグループが、台湾大学で創立された(Cogswell, 2000)。

1990年代に、様々な大学において、沢山のゲイ&レズビアンの学生組織が出現した(Martin, 2004)。1994年から毎年、台湾北部の各々の大学では、同性愛に対する意識や認知を奨励するために、いわゆる“ゲイ&レズビアンの覚醒の日”が設けられている(Hong, 2004)。

2000年には、「台湾同志ホットライン」が、台湾で最初の同性愛のグループとして、内務省に正式な登録を行った。1999年に、その登録が拒否された理由は、“同性愛者間関係を促進することがふさわしくないし、ゲイ・コミュニティ・センターの創立や同性愛者に対するピア・カウンセリングのような援助を与えることが悪い結果<sup>4)</sup>を生み出す可能性がある”ということだった(Wang and Gofyy, 2000)。2003年に、「台湾同志ホットライン」が、ゲイたちや彼らの両親(主にお母さん)の互いの体験についてのインタビューを集めて『お母さんお父さん、僕はゲイだよ』(Dear Mom and Dad, I'm Gay)を出版した(Taipei Times, 21.12.2003)。

2000年に詹景巖氏(Chan Ching-yen)によって創立された「台湾ゲイ・レズビアン人権促進会」が、同年に高雄市で最初の同性愛のグループとして、高雄市の厚生機関に正式に認められた(Wang and Gofyy, 2000; Iin, 2000; Taipei Times, 25.06.2000; Ammon, (2001) 2005)。

文学や映画などが、台湾での同性愛の捉え方に、著しい影響を及ぼした (Damm, 1998)。例えば：1980年(要するに戒厳令のとき)に出版された白先勇 (Bai Xiang-yong) の小説『[薛/子]子』(Niezi)<sup>5)</sup>は、直接同性愛というテーマを扱って、その描写は医学的・精神医学的ではなく、社会的・現実主義的である。そのストーリーは、台北のニュー・パークにおける若いゲイの売春のギャングの物語である。英語版『Crystal Boys』は、1990年にサンフランシスコでゲイ・サンシャイン出版社 (Gay Sunshine Press) によって出版された (Sanders, 2002; Cogswell, 2000; Damm, 1998)。1986年に、小説に基づいて Yu Kan-ping 監督によって同じ題名<sup>6)</sup>の映画が作られた。さらに、2003年2月から、台湾の国立テレビ (PTS) で、人気俳優を使ってドラマ化されたバージョンが上映された (Taipei Times, 16.02.2003; Damm, 1998)。白氏は、台湾の最も尊敬されている小説家の1人である。彼は他の同性愛者の小説家と一緒に、1970年代から活動していたけれど、同性愛文学自体は台湾の文学の世界によって1990年代からしか認められなかった (Hinsch, 2000; Lin, 1998; Damm, 1998)。『中国の同性愛』(Chinese Homosexuality)、台湾での同性愛についての最初のノン・フィクション本は、1990年に出版された。1995年に、ゲイ・サンシャイン<sup>7)</sup> (Gay Sunshine) という台湾で最初の同性愛専門の出版社が創立された (Lin, 1998)。

1996年からG&Lは、中国語による最初の商業ゲイ雑誌として始まった。その目的は、同性愛を真面目な課題として捉えるように意識させることと共にポピュラー文化についての様々な情報を提供することであった。1998年から出版された*Together*というゲイ雑誌は、むしろジェンダーの問題が中心を占めていた (Lin, 1998; ILGA)。しかしながら、出版の数年後に、財政上の困難のため、出版をやめた (Martin, 2004)。最近出版が始まった*His*というゲイ雑誌は、一般の本屋で売られるのが政府から許された (Ammon, (1996) 2005)。

1993年に、香港の映画・ドラマ監督エドワード・ラム (Edward Lam) 氏に

よって計画された、台湾で最初の“同性愛映画祭”が行われた (Lin, 1998)。

2001年に、「台湾ゲイ・レズビアン人権促進会」によって組織された“第四回 中国ゲイ・レズビアン学会”は、台湾で行われた。

1988年に、台湾での最初の“ゲイ・マーチ”には、約100人が集まった (ILGA)。最初の“ゲイ祭り”は、1997年6月29日にニュー・パークで行われた (Utopia)。

2000年9月に、台北市は、“レインボー・アウトドア・フェア” (Rainbow Outdoor Fair) を含めて“ゲイ市民運動” (Gay Citizens Movement) や、外国のゲイ・アクティビストが講演を行い数百人もの参加者がいた“台北市国際ゲイ・フォーラム” (Taipei Gay International Forum) を組織した。その際、アクティビストたちは、陳水扁総統から会見を許されて、この会議によって、総統は、LGBTQ に対して安全・教育・職場での平等という権利を認めた。さらに、ゲイへの尊敬では総統が範を示すべきと判断した。当時から台北市は、年度予算立案の中に、“ゲイ市民運動”に関する出費も組み入れた (Wang and Gofyy, 2000; Ammon, (1996) 2005; (2001) 2005)。

台湾での最初のゲイ・パレードは、2003年11月1日に行われ、台北の市長を含めて1000人の参加者が集まった (*Taipei Times*, 02.11.2003)。第三回は、2005年10月1日に、「台湾同志ホットライン」によって組織され、5000人の参加者が集まった。

2001年12月の選挙では、政党に支援されていなかったが、初めて隠さずにゲイの候補者が2人いた。その1人は、昔からのゲイ・アクティビストのジェイムス・ジャン (James Jan) であった (Markus, 2001)。

2003年10月に、台湾の政府は、同性愛者間結合を合法化すると宣言したが、アクティビストたちや人権に関する様々な結社によると、これは、現実化する実力のないただの政治的なスローガンでしかない。2001年の最初の草稿は国会に出されることはなかった<sup>8)</sup>。それにも拘わらず、面白いの

は、台湾の社会からの反対運動が殆どなかったということである。

#### 4.9. ビルマ (ミャンマー)

##### LGBTQ のグループ

「ビルマのゲイ・レズビアン権利会」(Committee for Lesbian Rights in Burma), タイ  
イ : myomin@cscoms.com, <http://www.clrb.orgm>

「全ビルマ学生民主主義戦線」(All Burma Students' Democratic Front), PO Box  
31. Mae Sariang (タイ) : absdfhq@chmai21.loxinfo.co.th

##### 社会・文化の背景

ビルマの社会は基本的に仏教なのに、カンボジアと同じように同性愛に反対していると思われる (Hogan and Hudson, 1998; Than, 2005)。

ビルマ語では、同性愛者を示すために三つの語があり、性的な行動で区別されている：日本語に直訳すればこれらは、まず“心の性”として女性である“クロス・ジェンダー<sup>9)</sup>”，次に超自然的な現象と信じられている“ナットに憑かれた人”，最後に“隠している鹿”である (van Driem, 1996)。伝統的に、TG (MTF) の人々は、アチャョー (acault) と呼ばれて、女性的な行動を取って、一種のジョセイとして認められている。しかも、彼女たちと性行為を行う男性たちは、その性行為を異性愛的であると見なしている。社会の中で、アチャョーたちは、大変尊敬されているシャーマンや霊媒師、治療師、様々な儀式での踊り子として役割を果たしている。アチャョーは、ナットという霊に憑かれています、ナットと精神的に結婚して、ナットから女性性をもっていると思われている。ナットは、家、店、川などの守り神である。現在、アチャョーの大部分は、男性同性愛者である。要するに、ビルマでは、アチャョーになることは、ゲイにとって自分の性指向や内的な女性性を表現するための許されている一つの形である。主にポパ山で行われるナット祭りの

際、女装しているアチョーは、はでな服を身に付け、ごてごてした化粧をして、踊ったりする。しかしながら、アチョーは、超自然的な力を持っているために尊敬されていると同時に、羯磨（カルマ：業）が悪いと思われている（Coleman *et al.*, 1992; Winter, 2002; Lee, 2003）。

### 法律の状況

植民地主義時代の残り（1882–88年）としての刑法377条のもとで、男性だけに対する“不自然な罪”となる行為によって、罰金と同時に10年の禁固刑を科される（Sodomy Laws; Gay Law Net; IGLHRC）。しかしながら、最近、この法律によっての迫害が記録されていない（*Gay Times*, 19.07.05）。

学生・軍人に関する法の33A条のもとで、同性愛の性行為を行う軍人（女であれ男であれ）は、1年の禁固刑を科されるし、軍隊から解雇される（IGLHRC）。

2001年4月に、海外にあるいわゆるもう一つの（秘密）政府と見なされている「全ビルマ学生民主主義戦線」（All Burma Students' Democratic Front）というビルマの民主主義アクティヴィストの最も大きな組織の一つは、自らの法典によって、同性的性行為を合法的であると議決した（IGLHRC; Sodomy Laws）。

### LGBTQの状況

ビルマでは、ゲイ・シーンはなくて、いくつかの人気のある“ゲイ・フレンジー”バーやレストランがあるだけである（*Gay Times*, 19.07.05; Utopia）。

同性愛のアクティヴィズムも殆ど存在していないけれども、タイ・ビルマの国境のあたりで、アウンミョミン（Aung Myo Min）氏が民族的性的な少数派の人権のために活動している。彼は、1996年に創立された「ビルマのゲイ・レズビアン権利会」の会長であり、1990年に創立された「ビルマ国民連



合政府」(NCGUB)<sup>10</sup>での「人権についての資料センター」のセンター長でもある。1988年の学生運動に参加し、その後アメリカへ逃げて、人権学のマスターを取り、現在ビルマのゲイ・アクティヴィストのために、ワークショップを行ったりしている。ビルマでの人権に対する侵害についての研究や人権意識の普及活動により、1999年以降、IGLHRC やコロンビア大学の人権学センター、トロント大学などから七つの賞を受けている (Ammon, (2000) 2003; Than, 2005; *The Irrawaddy*, 1999)。\$ \$

#### 4.10. タイ

##### LGBTQ のグループ

「アンジャリー」(Anjaree), バンコク市, L : PO Box 322 Ratchadamngoen

「バンコク・ゲイ・グループ」(Bangkok Gay Group) 刑務所でエイズに対して啓蒙

「タイでエイズ中止のための友愛」(Fraternity for Aids Cessation in Thailand - FACT), バンコク市

「レスラ」(Lesla), L : <http://www.lesla.com>

「レインボー・スカイ」(Rainbow Sky), バンコク市, GT :  
<http://www.fasiroong.org>

##### 社会・文化の背景

\* アジアの多くの国々と同じように、現在のタイでは、家族を作ることや子供を持つこと、公衆の前で自分のジェンダーにふさわしい服を着ることは、大事である。結婚外の性行為に対する寛容のせいで、同性愛者たちも、公的に知られない限り、比較的自由に性行為できる (Matzner, 1998; 2004)。さらに、タイの社会は、トランスジェンダーや同性愛の両方に対して寛容である。仏教のタイ的な解釈によれば、同性愛の性行為の理由は、前世での姦

通のような罪の結果である。従ってこれは、明白な非難よりも自己満足した同情を生み出している (Jackson, 1995b; 2000)。

\* 伝統的に、タイ語では、セックスとジェンダーは区別されていなくて、生物的な性やジェンダー、セクシュアリティを示すために、ただ“フェット” (phet) という語が使われている。カッター (kathoey) というカテゴリーは、伝統的に半陰陽やトランスヴェスタイト、トランスセクシュアル、全体の男性同性愛者を示していたけれど、現在女装の男性 (同性愛者) や MTF のトランスセクシュアル<sup>11)</sup> という意味に限られてきた。全国的に、人数は、1万人から30万人の間に見積もられている。カッターの外観 (衣服、声、仕草) やある程度の性格も、はっきりと女性的である。タイでは、男性と性行為を行うこの女性的な男性は、マス・メディアに頻繁に出ていて、社会的に構造されているモデルでもある：どんな小さな村にさえも存在しているそうである。大抵の場合、カノジョたちのトランスジェンダー的な意識・感覚は、10歳くらいの幼い頃から出てくる。一般的に、綺麗さや服、パフォーマンスのために、トランスセクシュアルは、大変尊敬され愛されていると言える。カノジョたちの行動的な自由に対して公的な制限はあまりなさそう。しかしながら、親族や教員たちからしばしば性的暴力の的になることもある (Jackson, 1995a; 2000; 2001; Allyn, 2002; Winter, 2002; Matzner, 1998; 2004)。

歴史的に、カッターは、タイ社会の中で特別な機能を持っていたと思われる。現在でも農業地域に残っているトランスジェンダー的シャーマニズムの長い伝統が存在して、それを通じてカッターは、伝統的コミュニティの中で重要な役割を演じることができる。さらに、伝統的に結婚するとき女性が処女であるべきだから、カッターは、若い非婚の男性のための性的なパートナーとして利用されていた。現在でも時々、水商売も行っている (Allyn, 2002; Winter, 2002)。カッターのパートナーに対しては、特別な呼び方が使われていなくて、ただ“男性”と呼ばれているので、彼らの関係は、異性愛的なパ

ターンに基づいている (Matzner, 2004)。

\* タイが近代的な国であることを示すため、イメージを守るために、1940-50年代には、タイの政府がカッターや同性愛者に対して、差別の立場を取っていた<sup>12)</sup>。1960年代からは、自らをゲイと呼んでいた同性愛者が出て来た。当時から“ゲイ・キング”と呼ばれる能動的同性愛者と“ゲイ・クィーン”と呼ばれる受け身的同性愛者とは区別されて、時々いわゆるリバ (reversible 要するにどっちもできるタイプ) を示すために“ゲイ・クィング”も使われていた。しかも、男性同性愛者を意味するために、「同じ森の中にある木を好きな男だ」という表現もある (Jackson, 2000; 2001; Allyn, 2002)。ゲイという言葉がタイ語の中に入っているから、必ずしも英語での「ゲイ対異性愛者」という対立的な意味と同じであるわけではない。むしろ、利用されている主な理由は、女性的な連想を含めている「カッター」という言葉を避けるためである (Storer, 1999)。

#### 法律の状況

1900年代の初め頃に、西洋の法律や当時の流行に基づき、チュラロンコーン (Chulalongkorn) 王によって、(男性であれ女性であれ) 同性愛は、“反自然的”として違法なものになってしまった。しかしながら、この法は、決して適用されたことはなくて、1956年に廃止された (Jackson, 2000)。

現在、クロス・ジェンダーや同性愛的な行動は、違法ではない (Jackson, 2000)。同性愛的であれ異性愛的であれ、同意に基づく性行為の法的な年齢は、1978年に13歳以上から15歳以上に変えられ、しかも娼婦・男娼との性行為の場合、1996年から18歳以上である (Sri Lanka Gay Friends; ILGA)。世界保健機関 (WHO) による病気の分類の仕方に対応するために、2002年に同性愛は、精神病のリストから正式に消された (Utopia)。

しかしながら、反差別法は存在していないし、トランスジェンダーの変化したジェンダーは正式には認められていない。従って、公式の行事（卒業式や就職面接など）では、男性（衣服や名前など）として出席するように命じられる場合は多くある（Jackson, 2000; Winter, 2000; Gearing, 1998）。

仏教では、現在でも、カッターに対する聖職授与の禁止がまだ通用している。仏教では、男性トランスヴェスタイトや同性愛者が、性欲に支配されて様々な情熱に穢されていると見なされているから、彼らには僧侶になることがふさわしくないと判断されている（Jackson, 1995b）。それ自身は、同性愛嫌悪であるわけではないけれど、むしろ全ての性行為に対しての強い反対の感情として判断するべきである。さらに、エイズのせいで、1980年代の半ばから仏教の当局者によって、カッターや同性愛者たちに対しての不寛容な態度が出現してきた（Matzner, 2004）。

1930年代から変化されずに検閲法は、例えば映画に対しての場合、大変厳しくある。一つの有名な例は、1998年に行われた「第一回 バンコク国際映画祭」で示された『Bugis Street』（ブギス通り<sup>13)</sup>）というシンガポールの映画の検閲である。この映画は、トランスヴェスタイトについての話というだけで、ポルノグラフィーと見なされて禁止された。もう一つの例は、2005年に行われた「第一回 別の愛の仕方映画祭」（1st Alternative Love Film Festival）の事件（後述）である（ILGA; Berry, 1998b）。

### 法律の適用

タイでは、色々な差別や軽蔑のポリシーに反対するデモや抗議は、他のアジアの国々に比べたら、結構有効になると考えられる。

\* 1996年12月に、保育園や小学校の教員を養成しているラジャバット

(Rajabat) 学院の評議会は、全国の 36 の専門学校で、ゲイに対して入学禁止を決めた。この禁止事項は、“悪い性指向”の人々は子供にとってふさわしいロール・モデルになれないという理由で、文部省に早速認められた。しかしながら、様々な人権団体やアンジャリーからの国際的なキャンペーンの後、1997年に、ラジャバット学院は、禁止を取り消さざるをえなかった (Choong, 1998; Sanders, 2002; ILGA; Allyn, 2002; Storer, 1999)。

\* 1999年6月に、政府のPR部門は、テレビ番組の中でのトランスジェンダーの出演を制限するように指令を発した。アンジャリーのもとで俳優やアクティヴィストが抗議した後、数年後に取り消された (ILGA; Allyn, 2002)。

\* 2001年2月に「タイはタイが好き」(Thai Rak Thai) という政党の選挙の勝利後、新しい内務大臣プラチャイ・ピュンソンブン (Purachai Piumsonbun) 氏は、特にゲイのバーやサウナ、ディスコのような水商売の世界に対する攻撃を行って、いわゆる“社会的秩序”という道徳上のキャンペーンを始めた。当時までなかったバンコクのゲイ・バーに対する攻撃は、6週間にわたって続けられた。ピークのときに、中央バンコクでゲイ・バー6件が閉じられた。警察の攻撃のきっかけは、きわどい仕方でバンコクのゲイ・バー・シーンを見せてスキャンダルを起こしたテレビ番組の一つであろう<sup>14)</sup>。2002年中頃に、殆どのゲイに関する店は、警察に攻撃されていた。それに対して、異性愛に関する水商売の店は、警察から比較的は無視されていた。“社会的秩序”のキャンペーンは、一方では戦略の理由で「タイはタイが好き」政党内から、他方では経済的な理由でショー・ビジネスや観光ビジネスの世界から、大変批判されたけれども、一般のタイ人からはサポートされたそうである (Allyn, 2002; Tourneau, 2001; Assavanonda, 2001)。

\* 1954年から、トランスジェンダーや同性愛者たちは、候補者の人数が

多すぎたという理由で、21歳から29歳の男性に対する軍隊への徴募から、精神病患者として、取り消されていた。軍当局者は、これが同性愛嫌悪ではなく、ただ同性愛者がいない場合、軍隊を監視しやすいだけだと言った。しかしながら、2005年8月10日に、“変化をしている社会に従うために”，制限していた全ての条件は取り消された (Utopia; 365gay.com, 10.08.05)。

\* 2004年6月に、文部大臣は、全社会のために範を示したがって、同性愛者（“異常性欲の人々”）が文部省に関する様々な部門に勤めることをもう許さないと言い出した。彼は、ソープ・オペラに出てくる同性愛の人物が子供に対して悪い影響を及ぼしているという理由で、同性愛的な性行為を放送することが禁止になったという手紙を、全国のテレビ会社へ送付した (Utopia)。

#### LGBTQ の状況

オープン性や寛容、性的な自由という国際的評判を持つタイは、アジア人のLGBTQによると、日本や台湾と並んで、アジアの国々で最もゲイ・フレンドリーの一つである (Cogswell, 2000; Matzner, 2004)。歴史的に、トランスジェンダー性や同性愛的な性行為の長い伝統がある。同性愛嫌悪に関する犯罪は、昔から公開討論の課題の一つになっている (Jackson, 2000)。

だからと言って、同性愛に対して完全に寛容的な社会であるというわけではない。例えば中国出身のタイ人やイスラム教系のタイ人は、今でも自分の文化的な背景から出現している差別の犠牲者であると言える (Allyn, 2002; Matzner, 2004)。同性愛やクロス・ジェンダーの行動は、一般社会に受容されたと言っても、完全にふさわしいと判断されているわけではない。従って、差別や反対の態度、制裁まで存在している。要するに、同性愛者に対する法的・宗教的・隠されていない同性愛嫌悪は存在しないかも知れないけれど、学校や職場、マスコミ、面接の場合で非難する言い方や追放、親戚からの強

姦という制裁が十分存在している (Jackson, 2000; Matzner, 1998; 2004; Tatchell, 1989)。例えば、1980年代の中頃、つまりエイズの時代に、当時まで隠れていた反同性愛者の態度は、公的に突然出現してきた。何人かの仏教の作家も、仏教的な理論に基づいて、エイズ感染の主な理由として、男性同性愛者に汚名を負わせ始めた (Jackson, 1995b)。同性愛に対する寛容が肉体的な行為に限らなさそうで、同性愛の関係は、社会的に支配している“異性愛規範主義” (heteronormativity) に反対であると判断されている (Hogan and Hudson, 1998)。

さらに、マスコミによっても、同性愛者は、ステレオタイプ化されている。例えば、ゲイは、いわゆる“同性愛的本質”の結果として、感情的に落ち着かなくて肉体的に暴力的な男性としてしばしば描写されている。同性愛者を含めている犯罪に対してのルポルタージュや放送は、普段扇情主義的である (Matzner, 1998)。

一般社会は、カッターには結構寛容的であるが、ゲイたちはむしろ西洋らしき変態性欲者と見なされている。要するに、カッターが女性的な役割を演じるのに対して、ゲイは、性欲的に他の男性が欲しい男性である。これは、タイで許されているエロティシズムの一つだけの形である男女の対称・相補性に、反していると解釈されている (Jackson and Cook, 1999)。このようなカッターとゲイの重なり合いは、タイの男性同性愛者にとって、(性的な) アイデンティティの形成を複雑にする (Allyn, 2002; Jackson, 2001)。

バンコクで自認したゲイや商業ゲイ文化の出現は、殆どの西洋の国々と同じようにアクティヴィストのネットワークを通じて起ったことがなくて、むしろ文化的な運動のおかげで起こった。つまり、タイの社会・文化の比較的な寛容は、同性愛者たちを政治的な運動やアクティヴィズムの形で活動するように促さなかったし、従ってタイではゲイのアクティヴィストの組織やコミュニティ・ネットワークはない (Jackson, 2000)。言い換えれば、タイ人の同

性愛者は、社会から差別されていないので、ゲイの政治的な組織が必要ではないと考えている (Allyn, 2002; Tatchell, 1989) : 「同性愛は違法ではないし、同性愛嫌悪は問題ではない」 (Jackson, 1995a, p.267)<sup>15</sup>。

それにも拘わらず、ゲイの世界は隠されていて、その活動は主にゲイ・バー、レストラン、サウナを中心に行われている。カミング・アウトは非常に稀であり、ゲイの活動範囲は様々なゲイ・サークルに限られていて、ゲイにとって自分の性指向を通じて性行為を行うのはとても簡単であるが、それについて公然と話すのは非常に難しいのである (Allyn, 2002; Jackson, 2000)。

タイのゲイ・シーンは、クルージング・スポットのようなハッテンバから始まった。最初のゲイ・バーは、1950年代にオープンした。その次に、いわゆるゲイ地域の一つになってきたパットポン (Patpong) 地区での最初のバーは、1960年代にオープンして、1980年から急に発展した。現在のタイでは、殆どのゲイ・バーは、ホスト・バーである。全国的に、ゲイに関するバーやサウナ、レストラン、ディスコは、3000人の男性を使用している200件に限らなくて、要するに全体のセックス・ビジネスの小部分に限られない。バンコクのゲイ・シーンは、東南アジアで最大であり、例えばタイ語の23のゲイ雑誌があつて、英語のものは少なくとも一つ (*Thai Guys*) がある。2006年に、中央バンコクに、「ゲイ・アヴェニュー」 (Gay Avenue) というゲイ専用のショッピング・センターがオープンする予定である。全ての店は同性愛者に所有されるけれど、性に関する品物は置かない (Utopia)。

ゲイ・バーで働くのは、特に貧しい農家の息子を引き寄せて、大変儲けになる仕事である：そのバー・ボーイの75%は、ラオスとビルマとの国境の近くにある貧しい農業地域から来ている (Tatchell, 1989)。

他のアジアの国に比べたら、タイでは、ゲイ観光は、大変発展し組織されている。タイの中央山地にある「フラワー・タウン」 (Flower Town) という (パンフレットによると) “世界で最初の全ゲイの村” は、1994年に、33歳



の同性愛者によって作られた。しかし、その 800 軒の家からなる村は、買い手を誘うことができず、放棄された (Choong, 1998)。

歴史的に特別な呼び方はなかったが、現在レズビアンは、普段“トム” (tomboy からの tom) と“ディー” (lady からの dy), と呼ばれている。要するに、国際的に利用されている“ブッチ” (butch) と“ファム” (femme) という対立である。タイのレズビアンが“レズビアン”という語を差別的・軽蔑的と見なしている場合は多くある。なぜかという、タイでは異性愛男性向けのポルノ映画と関連しているからである。ゲイよりもレズビアンの方が、よく社会からの差別の的になる：就職差別、姦通など。1980 年代の中頃から、レズビアンは、友人のグループを中心に、漠然と組織されている。が、レズビアンに関する場所 (バー、レストランなど) は、特に地方では非常に少ない (Allyn, 2002; Jackson, 1995a; 2001; Matzner, 1998; 2004)。

タイのただ一つのレズビアン会、“別の道を辿る人”という意味を持っているアンジャリー<sup>16)</sup>は、1986 年に創立され、現在 500 人のメンバーがあり、1989 年に、全国会議が行われた。NGO や厚生省、一般の国民から補助金を受けている。活動は、女性が好きな女性のためにネット・ワークを作ること、レズビアニズムについて一般の人に啓蒙すること、同性愛者にとっての人権を促進することである。『アンジャリーサルノ』(Anjareesarn) という小さな雑誌も出版している (Hogan and Hudson, 1998; ILGA; Matzner, 1998; 2004; Mahitthirook, 2000)。

エイズについての教育を目的としている「タイにおけるエイズ中止のための友愛」は、1988 年に、プロのダンサー、ナティー (Natee)<sup>17)</sup>氏によって創立された。『グーラ・ゲイ』(Guula Gay) というニュース・レターを出版している。1990 年代の数年間に、タイの最初のゲイ・コミュニティ・センターを管理していた。彼らのダンス一座 (White Line Dance Troup) を通じて、セーフ・セックスというメッセージを、学校や工場、ショッピング・センターで広め

ていく (Sanders, 2002; Mc Nicoll, 1998; Utopia)。

2001年1月に、現在タイで最も包括的な(男性)同性愛のグループであるレインボー・スカイが創立された。2003年に政府から、2004年には警察から、法的に認められた。活動の特徴の一つは、フィードワークを行うということであり、ゲイやトランスジェンダーが生活や様々な活動をしている所までアンケートを取りに行ったり、援助を与えたり、(エイズ、セーフ・セックスなどについて)啓蒙したりする。さらに、色々なイベント(パレード、学会など)に参加し、あるいはそれを組織している(Rainbow Sky)。

バンコクで1986年に創立された「Floating Lotus Communication Company」<sup>18)</sup>(浮かんでる蓮華コミュニケーション会社)という出版会社は、タイでのゲイやレズビアンの実際の生活について、本を出版している。例えば、1987年のエリック・アリン(Eric Allyn)氏のゲイ・ガイド・ブック『*The Men of Thailand*』(タイの男たち)、ピーター・ジャックソン(Peter Jackson)<sup>19)</sup>氏の有名な『*Dear Uncle Go*』(ゴおじさん)などである。

トランスジェンダー(MTF)キックボクサーのパリンヤ・チャルーンボン(Parinya Chaeroenphol)氏は、1998年に、カノジョが22試合で18ノックアウトを記録した後、マス・メディアに出て来た。すぐに、国際的にも有名になった。1997年に16歳の時、バンコクでの最初の大事な試合の前に行われた計量の際、彼女は、完全に服を脱ぐことを拒んだ<sup>20)</sup>。そして、下着を着ることを許されたが、その時に、タイ人の心を動かした。しかもその試合に勝ったので、彼女の人気上がることを助けた。しかしながら、女性性の外見を持っているカッターであるパリンヤ氏が、男性専用のリングに、上手くパフォーマンスすることは、規範のジェンダーの境をこえるということになっていた。1999年12月に、パリンヤ氏は、性転換手術を受けて、女性としてキックボクシングを続けた(Allyn, 2002; Storer, 1999)。2003年に、パリンヤ氏

の人生についての映画『*Beautiful Boxer*』(ハンサムボクサー)が、エカチャイ・ウアクロンタム (Ekachai Uekrongtham) 監督によって作られた。世界には、様々な映画祭に出て、多くの賞(ブリュッセル、バルセロナ、インド、ベルリン、イタリア、ノルウェイなど)を受賞した。日本では2005年秋に『ビューティフル・ボーイ』としてリリースされた。

全員がカッターである Iron Ladies (鉄の女性) というタイのバレーボール・チームは、タイのイメージのせいで、1990年代の終わり頃、国際的な試合に参加することを禁止された。2000年に、彼女たちのストーリーに基づいて『*Satree Lex*』(日本では『アタックナンバーハーフ』)という映画が、33歳のヨンユット・トンコントーン (Yongyoot Thongkongthun)<sup>21)</sup>監督によって作られた (Allyn, 2002; Horn, 2000)。

バンコクの“ゲイ・フェスティバル・パレード”は、最初は1999年秋に行われて、当時から年一回行われるイベントになった。すぐ後、有名なビーチ・リゾートは、同じように自分のゲイに関するイベントを考えてきた：プーケット島で2000年に、パタヤで2001年に。すると、タイでは、現在でも続いている毎年三つのゲイ・パレードが行われて、日本と違ってマスコミが、それについてのニュースを広く放送している。2001年11月の三つ目のバンコク・ゲイ・パレードの場合では、山車の性に関する要素を少なめにしていた (Ammon, 2001a)。2002年2月に、プーケット島で、三日間の“ゲイ祭り”の最後のイベントとして、様々な国から来た4万人以上の人々が参加して三つ目のゲイ・パレードが行われた (Sanders, 2002; Utopia)。

バンコクにおける「第一回 別の愛の仕方映画祭」は、チュラロンコーン (Chulalongkorn) 大学に組織され、1998年に行われた。自己イメージを守るためか、突然、チュラロンコーン大学は、映画祭への支援を取り止めてしまった。さらには“破廉恥な映画の上映”という非難が出たが、にも拘わらず、オープニング・ナイトで警察からの短い中断後、問題なしに、映画祭を続

けることができた (Berry, 1998b)。

トランスヴェスタイトのために、タイでは、ビューティ・コンテストが多く存在している。時々仏教の寺院の中で行われている。最も有名なのは、パタヤで 2001 年に 51 人の参加者があった Miss Tiffany (ミス・ティファニー) やパタヤにあるトランスジェンダーのキャバレー名から呼ばれていた Miss Alcazar (ミス・アルカザール) で、全国的に放送されている (Allyn, 2002; Winter, 2002; AFP, 2001; Matzner, 2004)。

チェンマイ工業短期大学は、2003 年秋に、入学したトランスジェンダー 15 人のために、“ピンク色の蓮華のトイレ” (Pink Lotus Bathroom) と呼ばれてきた専用トイレを作った。大学は、トランスジェンダーたちが、男性トイレからも女性トイレからも追い出されていて、非常に困っていた、という理由を挙げた (Utopia; *Japan Times*, 20.06.04)。

〔注〕

- 1) 1993 年に、ゲイやレズビアンは、反差別法に対するデベートに参加を許されなかった理由で、デモを行った (Cogswell, 2000)。
- 2) カリフォルニア大学の「軍隊におけるセクシュアル・マイノリティ研究センター」(CSSMM) を参考。http://www.gaymilitary.ucsb.edu
- 3) 2004 年 12 月に行われた、性アクティヴィストのカトリン・ヤコブス (Katrien Jakobs) による何 (ホー) 教授へのインタビューを参考。  
http://sex.ncu.edu.tw/animal-love/articles/2003Jul-Dec/
- 4) その表現が曖昧なままで、内務省からの具体的な説明はなかった。
- 5) 題名は日本語で「罪の子」と翻訳され、またあるいは「大変親不孝の息子」(Huang, 2000) とか「売春婦の息子」(Hogan and Hudson, 1998) とかにも翻訳できる。
- 6) アメリカなどで『Outcasts』としてリリースされた。
- 7) http://www.gaysunshine.com
- 8) Chang, Hong Cheng Maurice. “Made in Taiwan: Gay Rights of the Western Body with an Oriental Soul” (メイド・イン台湾：東洋霊付き西洋身体のゲイ権利). 1st

International Conference of Asian Queer Studies (「第一回 アジアのクィア国際会議」), バンコク, 2005年7月。

- 9) Van Driem (1996) 氏による。英語で「gynecopath」である。
- 10) アウンサンスーチーをサポートして、アメリカのメリーランド州で活動をしている。http://www.ncgub.net
- 11) MTF (male to female) は、女性になった男性を示している語である。
- 12) Totman, Richard. “Ambivalent Attitudes to Thailand’s Kathoey” (タイのカッターに対する両面性を持つ態度). 1st International Conference of Asian Queer Studies (「第一回 アジアのクィア国際会議」), バンコク, 2005年7月。
- 13) シンガポールで同性愛的な活動が行われる地方名 (後述 4.15. を参考)。
- 14) 何人かの新聞記者たちによると、この番組は、攻撃にもっともらしい理屈を付けるために、政府により組織された。要するに、タクシン総理大臣の家族が、その番組を放送したアイティービー (iTV) チャンネルを所有しているシン会社 (Shin Corporation) の株の 53% を持っているという次第である。
- 15) 1981年に、「男性は男性が好き」という名称の同性愛の組織が創立されたが、タイでは“ゲイに対する差別の証拠はない”という理由で、すぐ廃止された。その後、いくつかの偽り団体が出て来た (Allyn, 2002)。
- 16) 2000年に、「ユートピア賞」を受賞した。
- 17) 2000年に、ナティ氏も「ユートピア賞」を受賞した。
- 18) 2000年に、「ユートピア賞」を受賞した。http://www.floatinglotus.com
- 19) 2005年に、狭義でアクティヴィストではなく学者であるジャックソン氏が「ユートピア賞」を受賞した。
- 20) まる裸で現れること、つまりカノジョの“男性性”を見せることは、カッターとしての生活・人生が終わるという意味もある。すなわち前に述べたように、カッターが社会に許されるのは、決まったバシヨ (仕事, スペース, 状況) で“女性性”を演じる場合に限ってである。
- 21) 2000年に、「ユートピア賞」を受賞した。